

流木・ゴミ調査 プレ調査の実施方法

1. プレ調査の目的

《 ゴミ・流木調査の目的 》

- 河川や海岸管理者、市民団体等が流域圏で一体となった調査実施
- 出水後のゴミや流木の実態を把握し、情報共有する
- ゴミ等の状況を生物への影響や、発生場所の想定観点からも調査
- 自然分解されにくい人由来のゴミとともに、自然由来の流木やヨシの状況などを把握し蓄積することで、将来的にどこで何の対策を講じることが効果的か、個々の地域で対応できる問題か連携が必要かなどを話し合えるような発展を期待する
- 矢作川流域圏での取り組みについて、他の流域の活動者等とも情報交流し、伊勢三河湾全体の漂着ごみへの対応を強化する

ゴミ・流木調査本調査に向けて、調査票の有意性や本調査の実施方法等について検討するため、プレ調査を実施する。

2. プレ調査の方法

2.1 準備物

調査に必要な準備物は以下のとおりである。

■ 準備物

NO	備品名	個数	備考
1	ブルーシート (5m×3m)	2	事務局で用意
2	10m ロープ	6	
3	メジャー	2	
4	ガムテープ	2	
5	画板	5	事務局補佐で用意
6	45L ごみ袋 (50 枚入)	1	参加者で各自用意
7	デジタルカメラ	—	
8	筆記用具	—	
9	軍手	—	
10	帽子	—	
11	飲物	—	

2.2 調査票と調査対象

調査は、調査票 (1) ~ (3) を用い、自然由来ごみ、人由来ごみ、生物影響ごみを対象とする。

■ 調査票の種類とプレ調査での実施の有無

調査票 (案)	調査 (記入) 内容	プレ調査での実施の有無
調査票 (1)	調査実施日や場所の概要を記入	実施
調査票 (2) -1	代表地点 10m 四方の自然由来ごみの状況を記入	実施
調査票 (2) -2	代表地点 10m 四方の人由来ごみの状況を記入	実施
調査票 (3)	人由来ごみのうち 1 m 四方の生物への影響ごみを記入	(2) の範囲で数箇所実施

■ 調査票 (1) (案)

(調査様式案 1-1・表面)

基本情報		備考
調査日	平成 年 月 日	
調査時刻	午前・午後 時 分	
調査地点名		
調査地点 k p	() Kp	河川調査の場合
調査者		
調査地点	(地点に○)	

■ 調査票 (2) -1 (案)

調査票 (2) -1 (案)

流水調査項目	流水等の漂着状況			調査地点 () 代表地点 10×10 m 四方の目視による内訳
	灌木 (低木)	流木	その他 (分類不能)	
流水の特徴を チェック	A. 漂着物の状況 (時間経過)	()	()	—
	B. 人工林・自然林、その他の別	()	()	—
状況写真	(遠景)		(近景)	
	樹種が判別できたものの名前			
調査総評 コメント欄				
現場で感じた 解決のための アイデア				

流水の特徴をチェック

A. 漂着物の状況 (時間経過)	1	樹皮、枝葉が確認され、漂流後間もないもの
	2	樹皮等は確認されず、時間をかけて漂流したもの
B. 人工林・自然林、その他の別	1	根こそぎもしくは折れて運ばれてきた樹形のまっすぐな人工林
	2	まっすぐな樹形かつ切断面が明確な間伐木
	3	切断面は明確だが、まっすぐでない人工林以外のもの
	4	根こそぎもしくは折れて運ばれてきた灌木等
	5	その他 ()

※調査票は、実施の結果を受けた改善提案に基づき、改良・反映のPDCAサイクルにて運用。

■ 調査票 (2) -2 (案)

調査票 (2) -2 (案)

ゴミ調査項目	該当欄にチェック		調査地点番号 ()		
	チェックシート	発見できたゴミ			
人由来ごみ ゴミの種類	生活系ごみ	<input type="checkbox"/>	1. 飲料用プラボトル	<input type="checkbox"/>	7. くつ、サンダル
		<input type="checkbox"/>	2. 食品の包装・容器	<input type="checkbox"/>	8. 苗木ポット
		<input type="checkbox"/>	3. 生活雑貨	<input type="checkbox"/>	9. 飲料ガラス瓶
		<input type="checkbox"/>	4. ふた、キャップ	<input type="checkbox"/>	10. おもちゃ
		<input type="checkbox"/>	5. 袋類 (農業用以外)	<input type="checkbox"/>	11.ライター
		<input type="checkbox"/>	6. 飲料缶	<input type="checkbox"/>	12. その他生活系
	漁業系ごみ	<input type="checkbox"/>	13. 漁業系		
		事業系ごみ	<input type="checkbox"/>	14. 木材等	<input type="checkbox"/>
	その他		<input type="checkbox"/>	16. 硬質プラスチック片	<input type="checkbox"/>
		<input type="checkbox"/>	17. 発泡スチロール片	<input type="checkbox"/>	20. 金属片
上記以外	<input type="checkbox"/>	18. シート、袋の破片			
	<input type="checkbox"/>	名称: ()	<input type="checkbox"/>	名称: ()	
ゴミの量	ランク ()	目視・写真判定可			
発生場所の参考記載の有無	・住所、電話番号、その他の記載 ()				
状況写真					
	(遠景)		(近景)		
調査総評 コメント欄					
現場で感じた 解決のための アイデア					

■ 調査票 (3)

調査票 (3)

生き物へ影響のあるゴミ清掃・調査 作業表

■作業の概要

記録者に○

実施日:	調査者名:	
清掃場所:		
天候:	最大干潮時間:	潮位:
作業時間:	~	
環境:	堤防・岩場・ヨシ原・干潟・その他 ()	
作業範囲:		

■1㎡枠内調査

生物に影響するゴミ	個数	その他ゴミ	個数
発泡スチロール (片手で拾えるサイズ)		ペットボトル	
ガラス破片 (手で拾えるサイズ)		ビン類	
プラスチック破片 (手で拾えるサイズ)		空き缶	
微細ゴミ類 (レジンベレットを含む)*1	L	ガスボンベ	
シート状のゴミ (ビニール袋・布・衣類など)		スプレー缶	
釣り具 (釣り針・釣り糸)		ガラス・陶器 (食器など含む)	
釣り具 (オモリ)		プラスチック容器 (ボトル容器など含む)	
釣り具 (ルアー・疑似餌)		ボール	
使い捨てライター		靴	
タバコの吸い殻・フィルター		ぬいぐるみ	
ペットボトルのキャップ		車両部品	
漁網		電池 (バッテリーを含む)	
ロープ・ひも状のゴミ		電球・蛍光灯	
		医療ゴミ	
		かばん・バッグ・財布	
		花火	
		家電・家具	
		ゴム製品 (タイヤ・ゴム板)	
		木製品	
		雑誌・本	

*1:まとめてリットル計算

■ゴミ回収結果









重量	可燃ゴミ	kg	ゴミ製品 (タイヤ・ゴム板)
	不燃ゴミ	kg	木製品
メモ:			

2.3 ゴミのカウント方法

(1) ベンチマーク写真を撮影する（調査票（2）-1 対応）

- ゴミ等の集積代表地点を 10×10m 枠取りして写真を撮影し、ベンチマークと対比する。

■ ベンチマーク写真

ゴミ袋数	見通しの良い状態	ゴミ袋数	見通しの良い状態
20L ゴミ袋数 0【袋】	【ランク0】 	20L ゴミ袋数 2【袋】	【ランク4】 
20L ゴミ袋数 1/4【袋】	【ランク1】 	20L ゴミ袋数 4【袋】	【ランク6】 
20L ゴミ袋数 1/2【袋】	【ランク2】 	20L ゴミ袋数 8【袋】	【ランク7】 
20L ゴミ袋数 1【袋】	【ランク3】 	20L ゴミ袋数 16【袋】	【ランク7】 

出典：河川ごみ調査マニュアル(国土交通省水管理・国土保全局河川環境課 平成24年3月)

(2) 目視によりゴミ量を判定する（調査票（2）-2 対応）

- ゴミ等の集積代表地点 10×10m の中にあるゴミを 20L ごみ袋に換算して（1×1m に並べる）、ランク 0（0袋）からランク 10（128袋）までの 12 ランクで評価する。
- 評価は 2 人 1 組で行い、1 人が撮影、1 人が記入を行う。

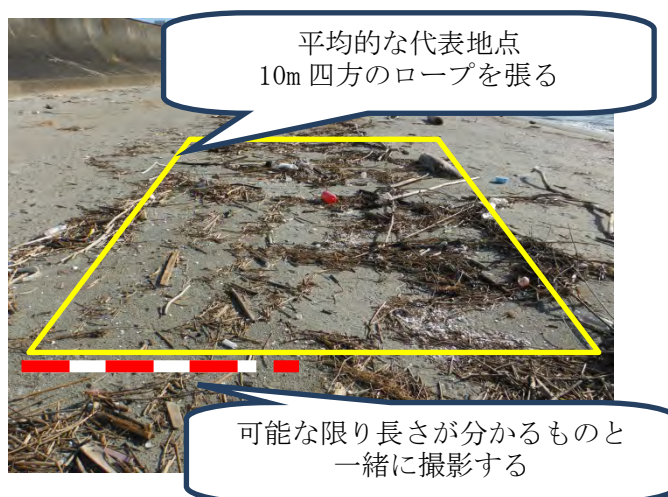
■ 目視によるゴミ量等の簡易判定（20L の目安）



出典：河川ごみ調査マニュアル(国土交通省水管理・国土保全局河川環境課 平成24年3月)

(3) 生物への影響ゴミを調べる（調査票（3）対応）

- ゴミの散乱状況のわかる「全体写真」とゴミ・流木処理の困難さの判る「部分写真」を撮影する。
- 1 m²枠内での生き物に影響するゴミ、その他のゴミの個数をカウントする。
- 調査は全員で行い、試行的に1ヶ所のみで実施する。



■全景写真



■近景写真

3. プレ調査のふりかえり

3.1 プレ調査を実施して

(1) 調査方法について

- 調査時間は適切でしたか？
- 調査人数は適切でしたか？
- 調査の数（自然由来ごみ、人由来ごみ、生物影響ごみ）は適切でしたか？

(2) 調査票について

- 調査票は記入しやすかったですか？
- 調査の項目は十分でしたか？

(3) 調査結果のとりまとめについて

- 調査結果は、誰がどのようにとりまとめますか？
- 調査結果をどのように活用したいですか？（ex.メーリングリスト、HP、ニュースレターなどで流域圏全体に広報する）

3.2 本調査に向けて

- 調査方法の他対象地（上流部、中流部、河口部）への適応性はどうですか？
- 本調査の際の参加者の募集方法はどうしますか？
- 本調査の際の実施場所はどこにしますか？
- 本調査の際の連絡体制（出水から調査まで）はどのようにしますか？
- 調査結果は、誰がどのようにとりまとめますか？